

心と心の ネットワーク

—市民総参加型社会の
実現に向けて—



都留市長 小林 義光



平成十年の年頭にあたり、市民の皆様は謹んで新年のよろこびを申し上げます。

昨年の市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ各方面から力強いご支援と心温まるご厚情を賜り、第七代都留市長として市政執行の重任を担うこととなりました。皆様からお寄せいただきました厚いご信頼に対し、その重責を改めて痛感するとともに、市政の推進に当たりましては、「市民一人ひとりが主役のまちづくり」を基本姿勢として、来るべき新時代に即応した市民参加型・市民提案型のまちづくりの推進に、誠心誠意取り組んで参ります。

現下の地方財政は多額の借入金を抱え、国・地方ともに財政構造改革を進める上で、地方財政の健全化は極めて重要な課題となっています。

一方、地方分権の推進がいよいよ実行の段階に至り、市町村は分権型社会の担い手として、地域住民の意志に沿った主体的な施策を展開し、地方自治の新時代を自ら切り開く創造的な行財政運営が、強く求められているところです。

このような状況下ですが、今回の市長選挙の際お示しましたように、より多くの市民の皆様の見が市政に反映され、一人ひとりが生きがいを持って、このまちに

住んで良かったと実感でき、住むことに誇りを持てる「生活者主体のまちづくり」を基本理念に据え、四つのコンセプトと三つのプランにより、皆様の期待と信頼に応えていきたいと考えています。

第一に

「地域創造・市民が主役のまちづくり」

今、個性の尊重が叫ばれ、若い世代ばかりでなく中高齢者層においても多彩なライフスタイルが定着してきました。従来の行政主導型の市政運営では多様な社会ニーズへの対応が難しくなってきたいます。

市民の皆様が発想し、その豊かな発想を行政が支援して行く、市民参加型・市民提案型のまちづくりを推進するため、市民委員会を組織し、知識経験者に加え、幅広い分野から新鮮な感覚を持った女性や若手の登用を積極的に進めていきたいと考えています。

また、各種審議会の委員についても可能な限り公募制を導入し、新しい時代に適合する発想の展開を期待したいと思えます。

第二に

「人は地域の宝・子どもたちの笑顔が光るまちづくり」

本市には、都留文科大という特色ある知的風土を形成しうる要素が備わっています。大学を中心としていろいろな人材が集まり、

学問や文化・芸術を享受し、地域へ還元していく。人や情報の交流が地域活性化への第一歩です。

このため、市立図書館との連携を視野に入れた大学附属図書館の建設や市民サイドで大学の在り方を考える懇話会の設置を行うなど、都留文科大の活性化を市民参加の中で強く進めていきます。

また、少子化時代を迎え、本市の将来を担う子どもたちを、地域の宝として大切に育成していくため、既存の施設を有効利用した児童館の整備や不登校児童への支援事業として、県の適応指導教室開設の要請、学校週五日制への対応として総合型地域スポーツクラブの組織化などの「のびのび二十一プラン」を推進し、地域組織活動の育成を図っていきます。

また、周産期医療を充実するため、市立病院へ産婦人科の増科を総合病院化計画の中で検討したいと考えています。

第三に

「温故知新・時のおもさが実感できるまちづくり」

城下町として、また、古くから郡内の中心地として栄えて参りました本市には、市内各所に貴重な歴史的財産が残されています。

この財産を見直し再評価することによって街の核ができあがり、懸案となっている市中心部の活性化をはじめ、市全体が活気に満ち生き生きとした、住んでいること